

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成27年2月解析分)

1 今月のピックアップ

(1) 子ども予防接種週間について

平成27年3月1日(日)から3月7日(土)は子ども予防接種週間です。

4月からの入園・入学に備え、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう！

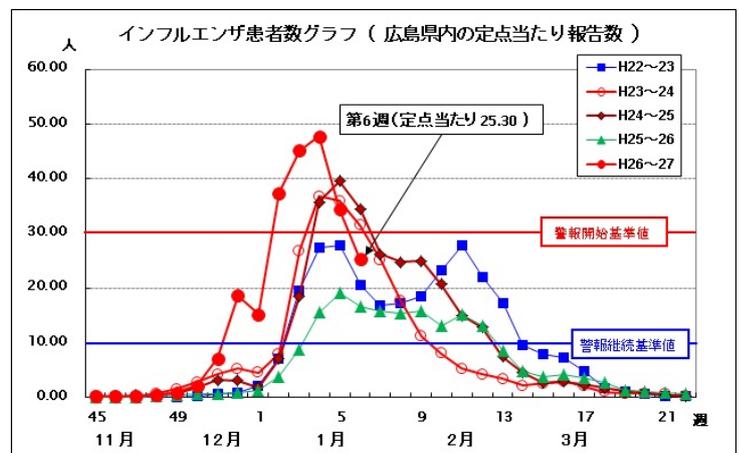
- 平成26年10月1日より、水痘(みずぼうそう)ワクチンが定期接種となっています。
- 予防接種に関する質問は、かかりつけ医に御相談ください。
- 予防接種が受けられる医療機関については、お住まいの市町の予防接種担当課へお問合せください。
- 予防接種を希望される方は、医療機関へ事前に予約しましょう。

(2) インフルエンザの流行状況について

広島県では、今シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は、平成27年第4週(定点当たり47.81)を最高に、2週連続して減少し、第6週には定点当たり25.30となりましたが、警報継続レベル(定点当たり10)を上回っています。

また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等も依然として発生が続いており、県内の流行は、しばらくは続くものと考えられますので、引き続き「手洗いや咳エチケット」などの感染予防・流行拡大防止対策をお願いします。

- ※ 第4週(平成27年1月19日～1月25日)
- 第6週(平成27年2月2日～2月8日)



なお、最新の発生状況等については、次のホームページを御覧ください。

- 「インフルエンザの流行状況(警報を発令しています)」(広島県感染症・疾病管理センター「ひろしまCDC」)
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hidsc-kansen-wadai-zyouhou-inf-zyouhou.html>

(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、冬季及び春～初夏の2つの流行がみられ、学童期の小児に最も多く発生する感染症です。

県内では、平成27年になり定点医療機関からの報告患者数が増加しており、例年の同時期よりも多い状況となっていますので、今後の流行状況に注意が必要です。

病原体	A群溶血性レンサ球菌(咽頭炎だけでなく、中耳炎、肺炎、髄膜炎など、いろいろな病気を引き起こします。)
症状	<ul style="list-style-type: none">・乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱(しょうこうねつ)といわれる全身症状を呈します。・感染すると通常2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善しますが、まれに重症化し、猩紅熱に移行して軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。・気管支炎を起こすことも多く、発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともあります。
治療と予防	<ul style="list-style-type: none">・レンサ球菌には抗菌薬が有効なので、お子さんが熱を出して扁桃腺を腫らした場合は、単なる「喉痛」と片付けず、かかりつけの医療機関を受診されることをお勧めします。・また、この病気は、患者の分泌物等からの飛沫やそれらに汚染された器物から感染しますので、感染症予防の基本である「手洗い」と「うがい」の励行を心がけてください。

なお、詳しい情報については、次のホームページを御覧ください。

- 「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは」(国立感染症研究所疫学センター)
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>

2 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成27年1月分(平成26年12月29日～平成27年2月1日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	20,634	36.01	14.67	↑	11	ヘルパンギーナ	6	0.02	0.02	
2	RSウイルス感染症	231	0.65	1.07	↓	12	流行性耳下腺炎	192	0.54	0.63	→
3	咽頭結膜熱	142	0.40	0.56	→	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	728	2.03	1.27	↘	14	流行性角結膜炎	57	0.60	0.77	→
5	感染性胃腸炎	3,089	8.63	10.51	↘	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	213	0.59	1.39	↓	16	無菌性髄膜炎	6	0.06	0.02	
7	手足口病	106	0.30	0.17	↓	17	マイコプラズマ肺炎	7	0.07	0.20	
8	伝染性紅斑	3	0.01	0.14		18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.00	
9	突発性発しん	143	0.40	0.44	↘	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.02	—	
10	百日咳	1	0.00	0.04							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成27年1月分(1月1日～1月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	37	1.61	2.09	↘	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	90	4.29	5.58	↗
21	性器ヘルペスウイルス感染症	20	0.87	0.73	↗	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	0.48	0.97	↓
22	尖圭コンジローマ	14	0.61	0.54	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.11	
23	淋菌感染症	23	1.00	1.09	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 インフルエンザ(7.16 → 36.01)
- 急減疾患 RSウイルス(2.32 → 0.65)
- 水痘(1.25 → 0.59)
- 手足口病(1.17 → 0.30)
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症(0.95 → 0.48)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	27	結核(27)〔西部東保健所(1), 東部保健所(6), 北部保健所(4), 広島市保健所(8), 福山市保健所(5), 呉市保健所(3)〕
三類	0	発生なし
四類	0	発生なし
五類全数	19	アメーバ赤痢(2)〔広島市保健所(1), 呉市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(B型)(2)〔西部東保健所(1), 広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(3)〔広島市保健所(2), 呉市保健所(1)〕, ジアルジア症(1)〔北部保健所〕, 急性脳炎(3)〔西部保健所(1), 広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔呉市保健所〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(3)〔広島市保健所〕, 水痘(入院例)(1)〔広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔呉市保健所〕, 梅毒(1)〔呉市保健所〕, 風しん(1)〔東部保健所〕